

五小っ子

平成31年度 学校便り第3号 (4月26日)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**
『生命を大切にし、進んで学ぶ
心身ともにたくましい子どもを育成する』
○ やさしさいっぱい ○ かしこさいっぱい ○ たくましさいっぱい
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

育友会新体制がスタート

今日は平成最後の授業が行われました。明日から始まる10連休中に新しい元号となる令和にかわりまします。令和の由来についてはご承知のとおりです。

「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。

万葉集の梅の花の歌32首の中で、「厳しい寒さの後、春の訪れを告げるように見事に咲き誇る梅の花の情景が美しく描かれているのです。」

郷土島原市の花であり、五小の校章、そして安中地区を象徴する**梅**が由来となった新元号は嬉しい限りです。

さて、先週4月19日(金)に行われた第五小学校育友会総会において新しい育友会長、有馬さんをはじめ次の方々の本部役員案・事業計画案・予算案が承認され、平成31年度の第五小学校育友会がスタートしました。

約170名の参加、誠にありがとうございました。
育友会活動は五小っ子の健全な成長のための活動です。会員皆様のご理解・ご協力なくしては成り立ちません。

「できる事を できる人が できる時に」という気持ちで一年間の活動を支えていただければと願っておりますのでどうぞ よろしく願いいたします。

- 本部役員の方々は皆さんです —
- (会長) 有馬 敏雄
- (副会長) 横田友美 川田昌輝 小嶋晃生 高原房江
- (監査) 森本美幸 吉武 忍 大町浩行 下田靖也

「やさしさいっぱい」「かしこさいっぱい」「たくましさいっぱい」これが本校の教育目標として掲げている子ども像です。

世界中全ての親にとっての共通の願いでもあると思いますし、友だちとの色々な関わりの中で、わが子だけでなく周りの友だちと一緒にそんな子どもになってくれると更に素晴らしいはずですよ。

時には友だちとの関係にもがき苦しむ時期もあるでしょう。「わが子にどう向き合えば良いのだろうか」と親も悩みます。育友会活動の中にそのヒントを見つける事ができる、育友会活動は大変だけど大切な活動であると私は確信しています。
※授業参観と学級部会もありがとうございました。

過ぎたるは... 「はえば立て、立てば歩めの親心」と昔からよく言われるように、親にとって我が子の成長は何よりも楽しみです、我が子はかけがえのない宝です

ただ熱心さのあまり子どもの成長を妨げる場合もあります。一緒に考えてみましょう。

子どもの言動を見ていると、じれったくなったりハラハラしたりする事が沢山あります。親が我が子にかけ言葉で一番多いのは.....「早くしなさい!」だそうです。

子どもは、自分でやってみて、成功したり失敗したりする中で育つのです。「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、やったことは身につく」と言われる所以です。危険な言動以外はできるだけ口出しを控えたいものです。

子どもが欲しい物は買ってあげたいのも親心ですが、今本当に必要なのか否かきちんと話し合い、必要でない物は我慢させるという「がまんの躰(しつけ)」は良薬です。

友達とのトラブルがあると親として気になるのも当然です。でも、子どもは時に意地悪を言われたり、泣かされたりする悔しさの中から強さや人との付き合い方が身についたりするのです。

最後に、「100点取ったら〇〇を買ってあげる」とか、付きっきりで宿題を見てあげるとか度が過ぎると、子どもは自分の意志でという意欲を無くしてしまいます。

人間ほど『子育て』をしている動物はいない」と、持論を展開する小児科のエッセイを読んだことがあります。

人間以外の動物は、親の姿を見て子が育ってゆく「子育て」ができていなくても、人間は親が先に手を出し口を出すものだから子は育たない、そしていつまでも子育てをする羽目になるのだと。

「過保護・過干渉・過期待は子どもの為にならない。」これは間違いのないようです。


『やってみせ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。』とは、山本五十六の名言中の名言ですが、もう一度、深く考えなければと私自身も自省中です。ところで、この名言には次のような続きがあるのだそうです。

『話し合い、耳を傾け承認し、任せてやらねば人は育たず。』

『やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば人は実らず。』

明日からの10連休、どうぞ皆様安全にお過ごしください。そして、五小っ子の皆さん5月7日、元気に登校するのを待っていますよ!! 切





なかなおり
金子みすゞ

げんげのあぜみち 春がすみ
むこうにあの子が立っていた
あの子はげんげを持っていた
私も げんげを つんでいた
あの子が笑うと 気がつけば
私も知らずに 笑ってた
げんげのあぜみち 春がすみ
ピーチク ひばりがいないいた